

話題本から社会考える

「読書会」毎月欠かさず10年

売れ筋の本を通して、現代社会を考える。そんな試みで始まった読書会が今年、10年の節目を迎えた。運営はすべてボランティアで、毎月欠かさず開催し、これまででの参加者は1000人を超えた。

今月は27日 大阪・ミナミで

126回目となった6月29日夜、大阪市内の喫茶店に、20、80代の男女11人が



読書会で感想を話す参加者と、主宰する小野元裕さん(右端) 大阪中央区

集まった。人工知能(AI)をテーマにSF作家たちが書いた短編集「人工知能の見る夢は」(文芸春秋)を題材に約2時間、感想を言い合った。

「囲碁でも将棋でも、今はAIが人間を凌駕している。これ以上進化したらどうなるのかと、怖い思いをしながら読みました」

「難しい専門用語ばかり。こんなこと初めてだけど、最後まで読まずにやめちゃった」

この「こころワクワク読書会」は2007年1月から始まった。題材にする本

の条件は、作者が存命▽世間で話題になっている▽在庫化されている、の三つ。

会を主宰するドニエブル

出版社長の小野元裕さん

(47)八尾市は、ドスト

エフスキーの読書会なども

開いているが、もっと幅広い

層と気軽に本の楽しさを

語り合いたいと、この形に

たどり着いた。小野さんは

「話題作には、いまの社会

が反映されている。作品に

ついて考えることで、社会

への理解が深まっていくと

ころに面白さがある」と話

す。

ほぼ毎回参加していると

いう豊中市の河本雪夫さん

(80)は「普段手に取らない

ような本も題材になるの

で、世界が広がる。長く続

いて欲しい」と話した。

今月の読書会は27日午後

6時半から、大阪市中央区

の丸福珈琲店千日前本店

で。参加費千円。テーマ本は中村文則さんの「教団X」(集英社)。問い合わせは小野さん(072・926・5134)へ。

(遠藤隆史)

ダウン症の書家 金澤さん巡礼展

24日まで箕面

東日本大震災からの復興支援を呼びかけようと、ダウン症の書家・金澤翔子さん(32)らの作品を集めた「心に光を」全国巡礼展が20日、箕面市の箕面文化・交流センターで始まった。入場無料で24日まで。

金澤さんによる掛け軸や額、びょうぶ、書を原画に

金澤翔子

平和の祈り